

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 貿易赤字は過去最大を更新(05年10月貿易統計)

発表日: 05年12月14日(水)

~ 民間航空機輸出が急増した一方、石油製品、自動車、燃料油等の輸入が増加 ~ (No. UI - 163)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

貿易収支(U.S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支		輸出		輸入		財 Goods		
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports	財 Goods	Imports			
04/10	555.74	594.32	+38.58	+0.9	(+11.4)	+0.4	+3.0	(+18.9)	+3.3
04/11	589.78	632.32	+42.54	+0.1	(+8.7)	0.9	+2.3	(+20.9)	+2.4
04/12	546.72	595.14	+48.42	+3.1	(+12.3)	+3.5	0.8	(+16.4)	1.0
05/01	585.76	626.97	+41.21	+0.5	(+14.2)	+0.8	+2.8	(+18.6)	+2.9
05/02	604.22	647.39	+43.17	0.8	(+9.8)	1.2	+0.6	(+17.1)	+0.9
05/03	540.55	588.94	+48.39	+1.4	(+8.0)	+1.1	3.1	(+10.4)	3.7
05/04	579.11	623.16	+44.05	+2.8	(+11.9)	+4.2	+4.3	(+14.5)	+4.9
05/05	562.64	607.82	+45.18	0.0	(+9.6)	0.1	1.0	(+11.6)	1.2
05/06	594.24	638.31	+44.07	+0.1	(+12.3)	+0.1	+2.0	(+10.8)	+2.3
05/07	578.16	625.40	+47.24	+0.8	(+10.9)	+0.7	0.5	(+11.5)	0.5
05/08	589.84	640.62	+50.78	+1.6	(+12.2)	+2.2	+1.7	(+11.0)	+2.3
05/09	659.95	713.23	+53.28	2.4	(+8.3)	4.2	+2.7	(+14.8)	+2.9
05/10	688.86	738.84	+49.98	+1.7	(+9.2)	+2.4	+2.7	(+14.5)	+3.0

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
	産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		産業資材	資本財	自動車	消費財	
05/02	1.2	+0.8	1.8	5.1	+0.9	+0.9	+4.1	3.6	0.7	+3.4
05/03	+1.3	0.1	+3.0	0.7	0.7	3.7	0.1	1.2	6.8	9.6
05/04	+4.2	+4.6	+5.5	+2.2	1.4	+5.0	+4.6	+7.8	+1.8	+5.1
05/05	+0.0	+1.4	2.9	1.9	+4.7	1.2	5.6	1.9	+4.9	+1.0
05/06	+0.1	0.9	+1.9	+1.2	2.2	+2.3	+5.3	+4.1	0.6	+0.2
05/07	+0.4	+1.5	+0.5	+2.0	+0.5	0.5	+1.4	2.4	+0.4	1.9
05/08	+2.6	+1.1	+3.8	+4.3	0.3	+2.2	+4.9	+0.4	+6.0	0.6
05/09	4.3	5.8	7.4	0.3	+4.1	+2.9	+6.6	+1.1	3.6	+2.7
05/10	+2.3	+0.3	+6.2	+2.0	5.6	+3.0	+7.5	0.3	+3.9	+1.2

(注) 季調済前月比伸び率。

*1: Industrial supplies and materials

*2: Capital goods, except automobiles

*3: Automobiles vehicles, parts and engines

*4: Consumer goods, except automobiles

	輸出					輸入						
	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本		
05/01	+12.1	+16.1	+14.3	+10.3	+5.5	+0.6	+18.1	+14.8	+17.4	+15.8	+17.0	+11.3
05/02	+7.6	+12.0	+9.5	+6.5	0.2	0.2	+16.9	+13.1	+15.4	+7.2	+22.5	+7.2
05/03	+7.4	+9.5	+5.5	+4.4	0.3	2.9	+9.6	+6.4	+13.3	+2.1	+8.8	+8.6
05/04	+12.6	+12.5	+11.9	+11.0	+6.9	4.2	+13.8	+9.0	+20.4	+5.4	+10.5	+4.6
05/05	+9.4	+12.2	+12.8	+8.6	0.6	4.9	+14.6	+8.5	+16.0	+14.1	+13.4	+8.9
05/06	+13.4	+13.4	+14.1	+12.8	+8.7	+5.2	+11.1	+3.3	+14.1	+9.6	+11.7	+8.6
05/07	+9.6	+5.3	+10.9	+9.7	+7.9	+3.6	+10.5	+4.2	+11.8	+8.2	+9.1	+2.9
05/08	+14.4	+13.9	+14.8	+6.6	+14.8	+15.7	+14.9	+13.1	+15.9	+12.7	+12.6	+8.5
05/09	+6.8	+10.5	+10.5	+3.5	+2.8	0.1	+15.9	+18.8	+14.5	+13.6	+10.6	+3.3
05/10	+8.1	+10.9	+7.6	+4.0	+8.7	4.6	+16.0	+20.1	+12.2	+14.5	+12.7	+6.9

(注1) 未季調前年比伸び率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

688.86 億ドルと
市場予想の減少に反
し過去最大を更新

05年10月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、688.86億ドルの赤字(前月比+4.4%)と、市場コンセンサスの629億ドルへの減少に反し増加した。サービス収支の黒字額が減少し、財収支の赤字額が大幅に拡大した。輸出は、消費財が減少したが、産業資材、自動車を除く資本財、自動車の増

加により前月比+1.7%と拡大した。特に、ボーイングのスト終了によって民間航空機の出荷が急増した。一方、輸入は自動車を除く資本財が減少したものの、産業資材、消費財、自動車が増加したことから同+2.7%となった。なお、原油は価格が1バレル=56.29と低下したが、輸入量が3億448.2万バレルに増加したため前月比+0.2%となった。

今後も、貿易赤字は高水準で推移する見込み

10月は輸出がボーイングのスト終了によって民間航空機・同エンジン等の増加によって拡大に転じた一方、輸入が石油製品、自動車、燃料油、液化石油ガスなどの拡大により増加したため、赤字額は前月から拡大した。今後に関しても、原油価格が高止まりしていること、さらにハリケーンの襲来に伴う精製設備の破損によってガソリン、原油等エネルギー関連の輸入増が予想されることに加え、内需の好調から原油以外の輸入も高い伸びが見込まれることから、貿易赤字は高水準で推移すると予想される。

貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させるには、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、

貿易相手国の輸入障壁の撤廃、輸出先の米国を上回る高い成長(米国輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く上昇トレンドにあるため)、ドル実効レートの減価、が挙げられる。 、 については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくならず、また貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため米国以上の高い成長も期待できない。現状の貿易・経済構造では米国の貿易赤字の大幅な削減は難しいと考えられる。ドルの実効レートは、景況感・金利格差を背景に下げ止まっている。また、2005年7月21日の通貨元の管理相場制への以降後も緩やかな元高にとどまっているため、対中貿易不均衡の解消にほとんど貢献していない。

ドル調整局面入りの可能性

米雇用創出法に伴う米国への資金還流がピークアウトしたとみられるなか、原油価格の高止まりや成長率格差によって米貿易赤字が高水準で推移すると予想され、経常赤字が大幅に縮小する可能性が低いこと、日本経済の回復感が一段と強まるなか、当座預金残高の目標額引き下げといった金融緩和策の解除が視野に入ってくると見込まれることから、今後ドルの上値は限定的となり円が買われ易い状況が予想される。

対中国、欧州、NAFTA、OPECでの貿易赤字額が過去最大を更新

地域別の収支では、対中国が205億ドル(前年比+22.3%)と過去最大の赤字額となり、22ヵ月連続で地域別で最大の赤字国となった(貿易赤字全体の26.7%に縮小)。対欧州は121億ドル(同+31.9%)と過去最大の赤字額となり、外需頼みの欧州景気を下支えしている。さらに、対NAFTAが129億ドル(同+31.0%)とエネルギー関連、消費財等の輸入増加によって過去最大となった。また、対OPECが94億ドル(同+32.1%)と原油価格の上昇を映じて過去最大の赤字額となった。対日は74億ドル(同+16.1%)と増加した。

輸出はボーイングのスト終了により前月比+2.3%と再び拡大

通関ベースでは、輸出は消費財が減少したものの産業資材、自動車、自動車を除く資本財が増加したため前月比+2.3%と拡大した。一方、輸入は資本財が減少したが産業資材、消費財、自動車の増加によって同+3.0%と加速した。

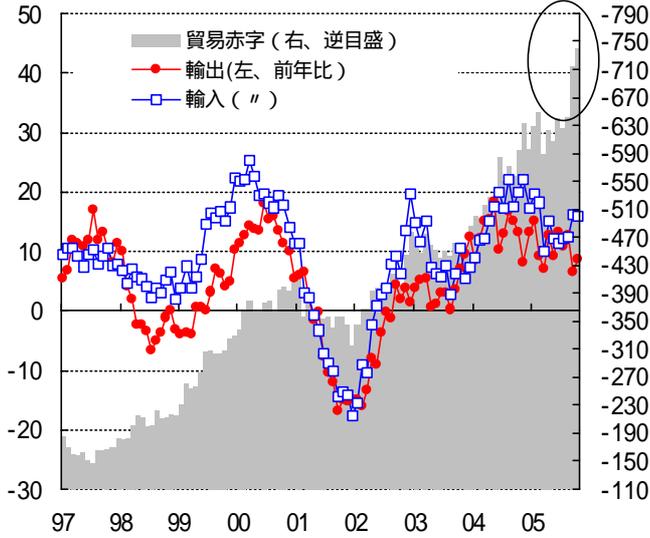
輸出の商品別内訳では、消費財は、ダイヤモンド原石、調合薬等の減少によって前月比5.6%と縮小した。一方、資本財は、コンピューター部品が減少したものの、ボーイングのスト終了による民間航空機・同部品の急増、油田掘削機、産業エンジン、医療器械、コンピューター、半導体等の増加により同+6.2%となった。

産業資材は、核燃料材、燃料油、プラスチック原材料、石油製品が減少したものの、天然ガス、化学製品等の増加によって同+0.3%と小幅増となった。自動車は同+2.0%と増加に転じた。

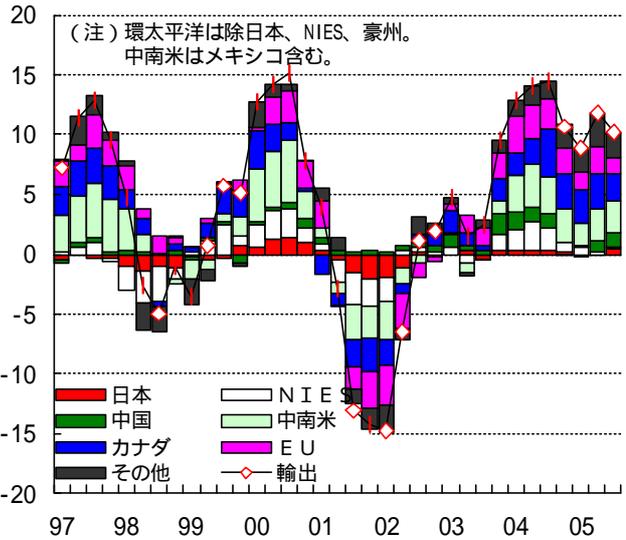
石油製品、燃料、液化石油ガスの拡大により輸入は前月比+3.0%と加速

輸入の商品別内訳では、自動車を除く資本財輸入は、産業機械、民間航空機エンジン、コンピューター部品、半導体等が増加したものの、コンピューター、紙パ機械、民間航空機・同部品の減少により同0.3%と縮小した。一方、自動車は前月比+3.9%と増加に転じた。産業資材は、石油製品、燃料油、液化石油ガス、化学製品、鉄鋼、核燃料、プラスチック原材料、天然ガス、銅、鋼材等の増加により前月比+7.5%と加速し5ヵ月連続の増加となった。消費財はダイヤモンド原石、音響機器、宝石が減少したが、調合薬、その他家庭用品、アパレル・繊維関連、テレビ・ビデオ、靴が増加したため同+1.2%と2ヵ月連続の増加となった。

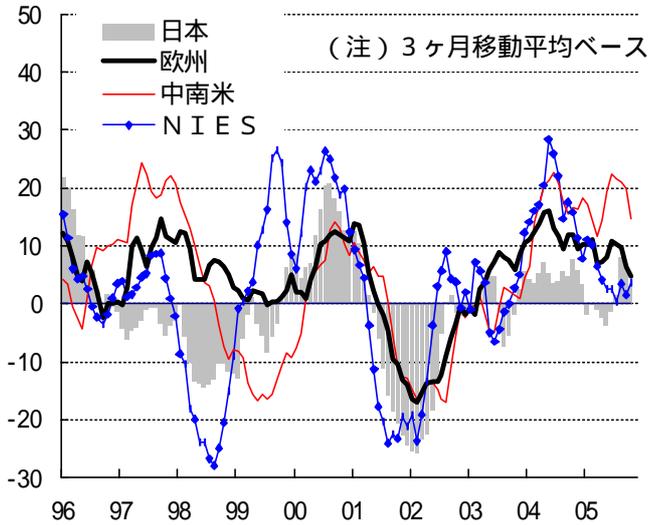
(%) 米国貿易動向 (財、BOPベース億ドル)



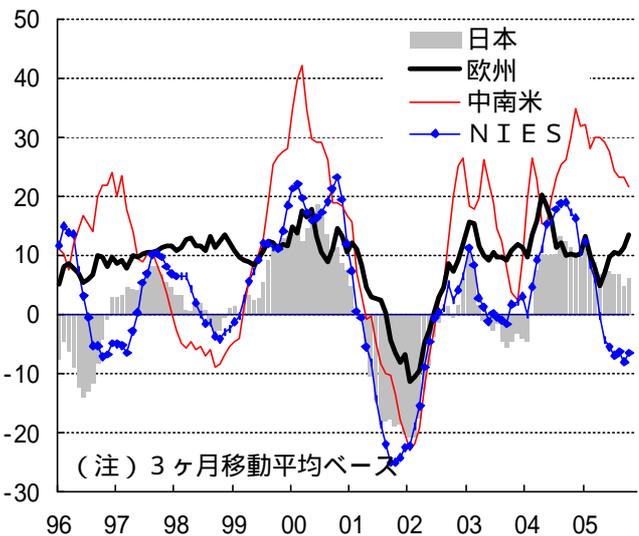
(%) 通関輸出地域別寄与度 (前年比) の推移



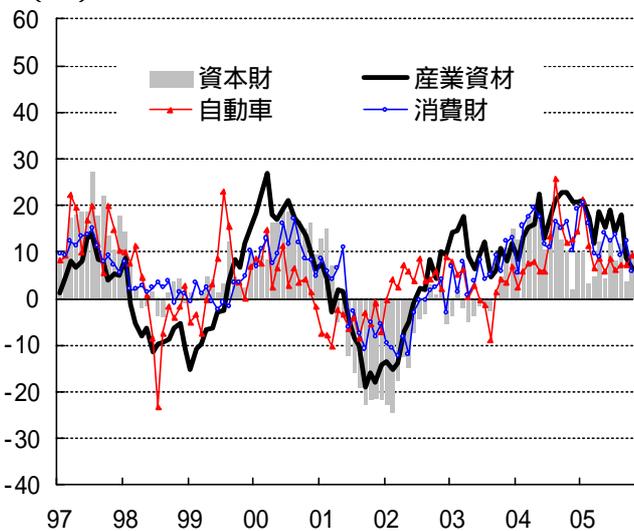
(%) 地域別輸出 (前年比)



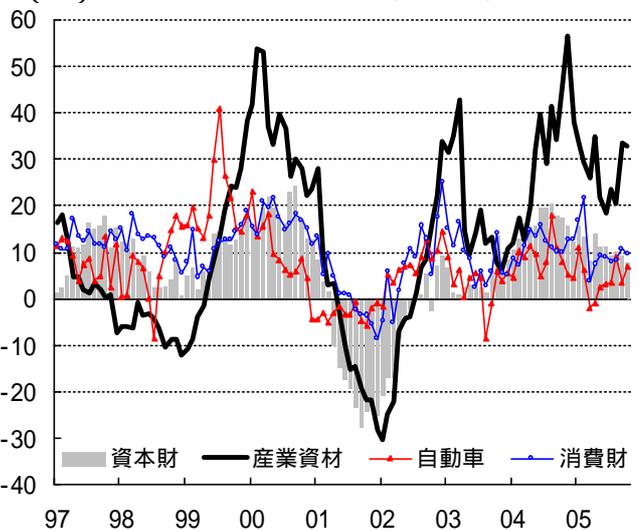
(%) 地域別輸入 (前年比)



(%) 財別輸出の推移 (前年比)



(%) 財別輸入の推移 (前年比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命いしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。